# 日日是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年3月19日金曜日

RESTデータ・ソースを使った高度な同期化(3) - コードによる同期化

こちらの記事の継続です。リモートにある表EMPとローカルの表LOCAL\_CHILD\_TABLEを、コードによって同期します。APEX\_REST\_SOURCE\_SYNC.DYNAMIC\_SYCHRONIZE\_DATAを使用します。

このAPIはSQLコマンドから呼び出すことはできないため、作成しているアプリケーションにプロセスを作成し、動作の確認を行います。

表LOCAL\_CHILD\_TABLEの内容の確認と操作ができるように、対話グリッドのリージョンを追加します。

ページ・デザイナでホーム・ページ(ページ番号 1)を開き、Content Body以下で**リージョンの作成**を実行します。タイトルをLOCAL\_CHILD\_TABLE、タイプを対話グリッドに設定します。表名にLOCAL\_CHILD\_TABLEを選択し、ROWID列を含めるをONにします。対話グリッドを編集可能にするために列EMPNOを主キー列と設定してもよいのですが、そうすると列EMPNOが非表示になります。今回の用途ではROWID列が扱いやすいので、こちらを利用します。



右ペインのプロパティ・エディタにてAttributesタブを開いて、**編集**を**有効**にします。



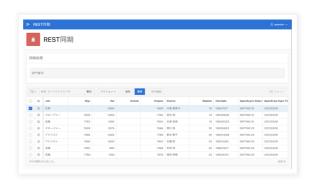
ページ・プロセスを呼び出すボタンを配置するリージョンの作成を行います。名前を同期処理とし、タイプは静的コンテンツを指定します。



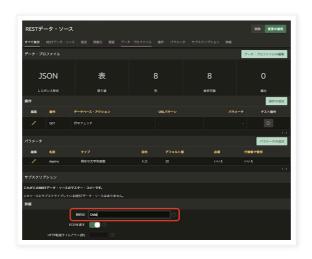
そこに、部門番号DEPTNOを入力する**ページ・アイテム**として**P1\_DEPTNO**を作成します。**ラベル**は**部門番号**とします。



作成したページを実行して、出来上がりを確認します。



アプリケーション・ビルダーに戻り、表EMPにアクセスするRESTデータ・ソースの静的IDを確認します。静的IDは名前と同じ、Childであることが確認できます。



指定した部門番号のデータを選択して、同期する処理を組み込みます。以下のコードを使います。

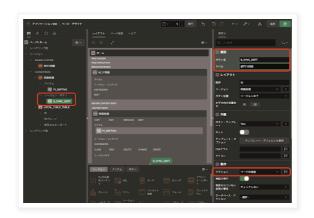
#### declare

l\_parameters apex\_exec.t\_parameters;

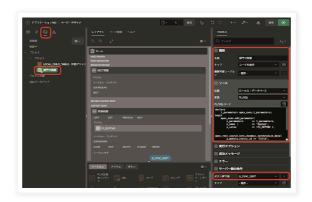
```
apex_exec.add_parameter(
    p_parameters => l_parameters,
    p_name => 'deptno',
    p_value => :P1_DEPTNO );

apex_rest_source_sync.dynamic_synchronize_data(
    p_module_static_id => 'Child',
    p_sync_static_id => 'dynamic "deptno" value',
    p_sync_parameters => l_parameters );
end;
```

**ボタンの作成**を行い**ボタン名**をB\_SYNC\_DEPTとします。**ラベル**は**部門で同期**とし、**アクション**は デフォルトの**ページの送信**のままとします。

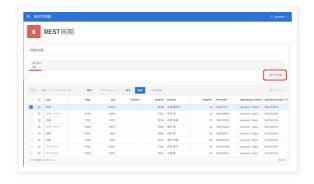


左ペインでプロセス・ビューを開き、**プロセスの作成**を行います。**名前**を**部門で同期**とし、**ソース**の**PL/SQLコード**を設定します。**サーバー側の条件**として、**ボタン押下時**に**B\_SYNC\_DEPT**を選択します。



これで同期処理の実装ができたので、ページを実行して動作を確認します。

対話グリッドからデータの削除や更新を行った後に、**部門で同期**を実行するとリモートの表EMPの内容で上書きされることが確認できます。

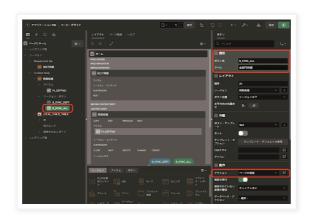


部門単位で同期できることは確認できたので、次に表LOCAL\_PARENT\_TABLE(リモートでの表DEPT) に含まれる全部門を対象に更新処理を行います。

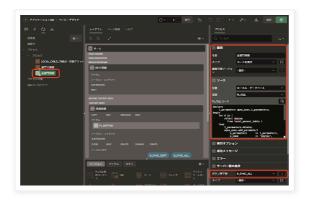
```
declare
   l_parameters apex_exec.t_parameters;
begin
   for d in (
       select deptno
         from local_parent_table )
   loop
       l_parameters.delete;
       apex_exec.add_parameter(
           p_parameters => l_parameters,
           p_name
                            => 'deptno',
                            => to_char( d.deptno ) );
           p_value
       apex_rest_source_sync.dynamic_synchronize_data(
           p_module_static_id => 'Child',
           p_sync_static_id => 'Dynamic Deptno',
           p_sync_parameters => l_parameters );
   end loop;
```

end;

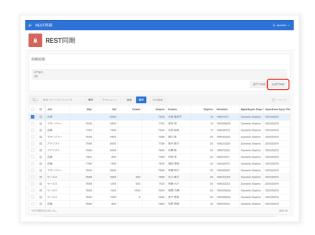
ボタンの作成を行い、ボタン名をB\_SYNC\_ALLとします。ラベルは全部門同期、動作のアクションはページの送信です。



実際に処理を行うプロセスの作成を行います。名前を全部門同期とし、PL/SQLコードを設定し、サーバー側の条件のボタン押下時はB\_SYNC\_ALLとします。



ページを実行し、動作を確認します。対話グリッドを操作し、全行削除した後、**全部門同期**をクリックします。リモートにある表EMPの内容がすべて同期されることが確認できます。



これでリモート表EMPとローカル表LOCAL\_CHILD\_TABLEの同期処理を一度に実施できるようになりました。

元記事ではこれから、親表つまりLOCAL\_PARENT\_TABLEを同期した後、表LOCAL\_CHILD\_TABLEを同期する方法を実装しています。RESTデータ・ソースの同期化は、それぞれのRESTデータ・ソース自体の設定であるため、複数のRESTデータ・ソースを一度に同期させることはできません。

次の記事は、自動化による同期処理を実装してみます。

続く

Yuji N. 時刻: <u>15:31</u>

共有

**、** ホーム

#### ウェブ バージョンを表示

#### 自己紹介

## Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。 こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

### 詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.